

TOKYO FM 平成 20 年度文化庁芸術祭参加作品 「赤塚不二夫～忘れてたくても思い出せない」11/28 放送決定

TOKYO FMは、11月28日(金)早朝3:00～4:00に、8月2日に肺炎のため亡くなられた漫画家「赤塚不二夫」さんを追悼して、特別番組「赤塚不二夫～忘れてたくても思い出せない」を編成します。幼少期を満州で過ごした赤塚氏の「異邦人」としての側面に特に注目し、数々の証言や音楽を通じて、赤塚氏とともにあった「昭和」という時代をあぶりだすドキュメンタリー番組です。

この番組は、TOKYO FMの番組プロデューサー延江浩が、数々の赤塚氏の追悼特集に触れ、幼少期に満州からの引き揚げを経験した氏の「異邦人」性の強さが、氏の描く漫画の登場人物たちに内包されていること、そしてそれが戦後ニッポンにおいて氏の漫画のキャラクターたちが万人に愛される魅力になっているのではないか、という興味を持ったことがきっかけで制作されました。

番組では、赤塚氏の一人娘の赤塚りえ子さんや担当編集者の武居俊樹氏など、生前に赤塚氏との親交が深かった関係者をはじめ、赤塚漫画に関わった声優の方々などの証言を中心に、赤塚氏の人生と、氏がその作品やキャラクターたちに込めたメッセージを通じて戦後ニッポンを考えていきます。

なお、この番組は平成20年度(第63回)文化庁芸術祭への参加が承認され、出品される予定です。

■TOKYO FM特別番組「赤塚不二夫～忘れてたくても思い出せない」番組概要

放送日時：2008年11月27日(木) 27:00～28:00 (翌28日(金) 早朝3:00～4:00 東京ローカル)

出演者：赤塚りえ子(赤塚氏の長女、フジオ・プロ社長)

武居俊樹(元小学館編集者)

山下洋輔(ミュージシャン)

横山隆雄(第一号の弟子)

赤塚漫画の声優の方々

国分佐智子 他

ナレーション：柴田 玲

協力：フジオ・プロダクション、青梅赤塚不二夫会館

→延江番組プロデューサーの制作日記より

「赤塚会館の2階の一室にときわ荘をイメージした部屋がある。そこだけ時間が止まって感じられた。ひとりぼっちの赤塚不二夫がそこにいる気がした。恥ずかしがり屋で照れ屋で、口下手な昭和のおじさん。満州の真っ赤な夕陽にコーリャン畑。10歳のとき、そこから着の身着のまま帰国して、手塚治虫の「ロスト・ワールド」に感激して漫画家になることを決意。何もないけどとりあえずペンがあれば大志を抱ける。今が駄目だけど、売れるまで踏ん張って、でもなかなか芽が出なく、でも少しずつ上がっていった。そこには、母親への感謝があり、だから、赤塚の描く漫画は必ず帰ることのできる家族があった。たとえば、天才バカボン一家。ハジメちゃんも天才、ママは綺麗で優しく、だからバカボンもパパも一生懸命彼らを笑わそうとバカをやる。パパは恥ずかしがり屋で照れ屋で、口下手な昭和のおじさん。“バカボンのパパは赤塚不二夫さんそのものだった”と資料に書いてあった」